

北都(新潟市)の取組み

# 水なし印刷で企業リノベーション

特殊加工印刷とパッケージ・厚物印刷を主力とする北都(新潟市江南区)は昨年7月、県内有数の大手印刷会社である島津印刷(島津延明社長、本社・新潟県新発田市)のグループ傘下となり、企画・デザイン力、A判印刷の強化などで、グループ全体の総合力を大きく向上させた。また、北都では今年1月、水なし印刷を導入しリノベーションに成功、この3月には記録的なジョブ数をこなすなど、品質・生産性の両面で大きな効果を出している。

北都の親会社である島津印刷は、グループ傘下に高速・大量オフセット印刷のアステージ(新潟市東区)、小ロット印刷の朝日印刷(山形県鶴岡市)、広告代理店のタクト(新潟市江南区)があり、各社の得意分野を活かした新規分野への進出など、活発な事業を展開

している。島津印刷は、グループ傘下に高速・大量オフセット印刷のアステージ(新潟市東区)、小ロット印刷の朝日印刷(山形県鶴岡市)、広告代理店のタクト(新潟市江南区)があり、各社の得意分野を活かした新規分野への進出など、活発な事業を展開している。

現在、北都の社長も兼任する島津社長は「アステージの立て直しという大きな仕事を抱えていたが、北都は技術力も営業力・企画力もあり、地域経済活性化支援機構の支援のもと、しっかりした



島津社長(中央)と島津印刷の木川取締役工場長(右)、北都の鈴木製造本部長

デューディリジェンス※を前提に受けた」と当時の状況を語る。

(※Due diligence. 投資やM&A等を行う検討段階で、事前に投資対象の財政状況や法務のリスクマネジメント状況などを精査する作業)

機構による再生支援は新潟県では1例目、業界では藤庄印刷(山形)に続き2例目となるが、今回の再生支援により180名の従業員の雇用が守られ、地元経済への影響を最小限にとどめることができた。

「グループの価値向上を念頭に水なし化

グループ化される前の北都は、メンテナンスに十分な費用をかけられ

ず、機械のパフォーマンスが100%活かせない状態だった。

そこで、リノベーションを目的とした水なし印刷にチャレンジすることに決まり、旧三幸堂の子会社から引き継いだJp440(菊全4/4色両面機・ロールフィーダ付)で今年1月から準備を開始、2月には本格稼働となった。

実は島津印刷でも、過去に水なしに取り組んだ経験があり、その長所、短所はある程度、把握していた。「北都の場合は空調・湿度管理もされ、天井が高く熱もこもらない工場環境だったので、チャレンジする条件は整っていた」と語る島津社長。

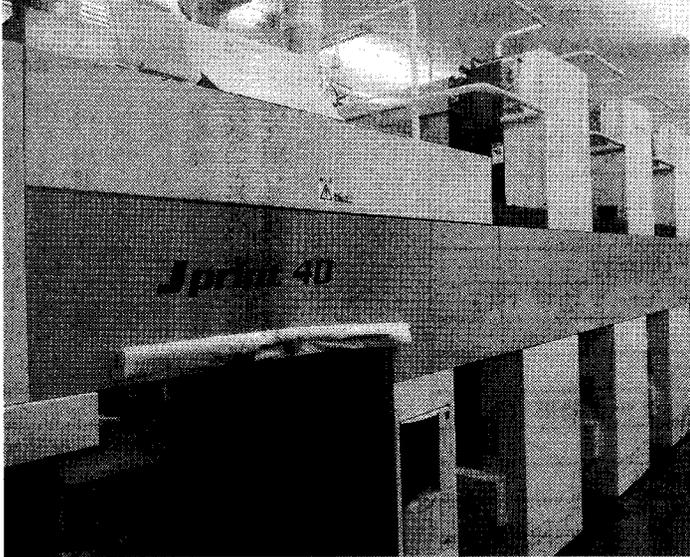
グループ全体の工場を管轄する島津印刷の木川博司取締役工場長は「Jp440は、かなりの修繕費をかけても5年持つかどうかだった。しかし、水なしにすれば消耗は少ないため、あと10年は持つ。同じ費用をかけるならこの際、環境に配慮した印刷が可能になる水なしに切り替えた方が、グループとしても価値があると判断した」と水なし化の背景を語る。

商品を作る機械であり、また、コンサルティング会社のタケミ(柴崎武士社長)にオペレータの教育、機械の手入れまで、懇切丁寧に指導され、たことも成功につながった。

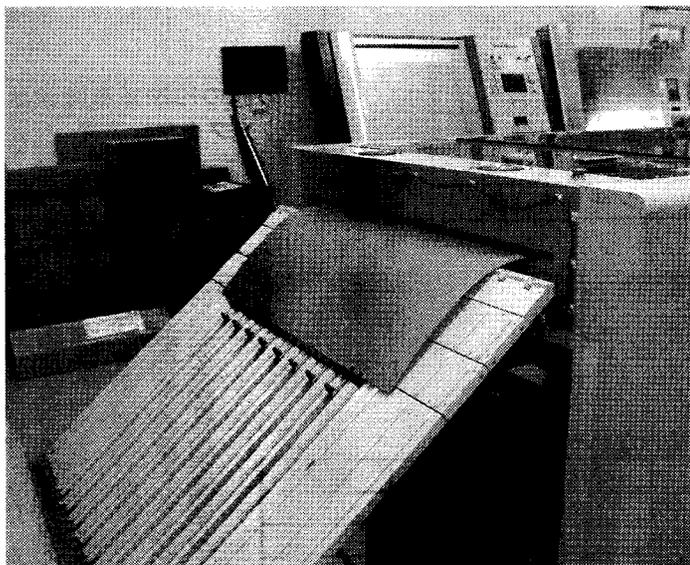
現状について鈴木本部長は「水なし印刷は二ツ幅を測り、常に印刷機を正常な状態にしないと機能しないため、ごまかしが効かない。しかし、準備時間の短縮やスピードアップなどで補っては、シャケットを交換して余りあるメリットがある」とその効果を語る。

さらに、ジョブの立上調整を行った上で、色数、紙厚、上質紙、コーラ、オペレータが色味や濃度管理などに集中できることも大きい。

## 品質・生産性とも向上 記録的なジョブ数こなす



水なし化された「Jprint440」



現像処理された水なし版

水なし印刷は、ダブルデッキタイプ最大の欠点と言われるファンナウトが改善でき、品質も向上立上がりも早くなるなど、資材コストが若干上がったとしてもそれ以上のメリットが得られる。「印刷機はわれわれの

一方、これだけの短期間で水なし化に成功した理由について木川取締役は「第一に挙げられるのは、オペレータの技量の高さ。また、過去2回、切替えにチャレンジした経験がありノウハウもあつた」と分析する。

この3月には同社としては記録的なジョブ数をこなしたが、木川取締役は、ジョブ数、通し枚数の著しい増加など水なし印刷の直接的なメリットに加え、今後も有形無形の効果が期待できると見ている。

水なし印刷は、ダブルデッキタイプ最大の欠点と言われるファンナウトが改善でき、品質も向上立上がりも早くなるなど、資材コストが若干上がったとしてもそれ以上のメリットが得られる。「印刷機はわれわれの

一方、これだけの短期間で水なし化に成功した理由について木川取締役は「第一に挙げられるのは、オペレータの技量の高さ。また、過去2回、切替えにチャレンジした経験がありノウハウもあつた」と分析する。

この3月には同社としては記録的なジョブ数をこなしたが、木川取締役は、ジョブ数、通し枚数の著しい増加など水なし印刷の直接的なメリットに加え、今後も有形無形の効果が期待できると見ている。